

あゆみ

vol.101

ayumi

令和3年
秋号



ごあいさつ

新型コロナウイルスの影響で、外出や家族面会の制限でご利用者とご家族へご不便をおかけしております。

さて、8月7日(土)はあゆみえん移転記念日ということで規模は縮小とはなりましたが納涼祭を開催しました。今回は新型コロナウイルスの影響と蔓延防止の観点からご利用者のみの参加とさせていただきます。

あゆみえん内にある新町の里というスペースを利用し、室内に櫓を設置し、盆踊りや射的、輪投げ、飲食の模擬店を用意し実施しました。

今年は昨年と違いご利用者・職員共にほぼコロナウイルスワクチンの接種が済んでいることから、フロアをまたいでの開催とし、約1年半ぶりに違うフロアのご利用者同士が顔を合わせる機会にもなりました。終了後には換気とアルコールによる消毒を実施し感染防止に努めています。

短い時間ではありましたが、季節の催しとしてご利用者には夏祭りを楽しんでもいただけたと考えております。

1日も早い新型コロナウイルスの終息を願うとともに、今後もみなさまに必要とされる施設を目指していきます。

介護1課 課長 高橋大介

法人理念

「働き易い職場を創り、快適なサービスを提供する。」

あゆみ保育園だより

青く澄み渡った空に、急に秋を感じられるようになりました。お散歩が気持ち良い季節です。自然との触れ合いのなかで、こどもたちの小さな発見を大切に、共感してあげることで豊かな感性を育ててあげたいと思っています。



あゆみえんの敬老式典には、子どもたちの可愛いビデオメッセージと歌、そしてプレゼントをお届けしました。あゆみえんのご利用者みなさまに喜んでいただけたら幸いです。

あゆみ保育園 園長 濱中美穂



デイサービス センター

あゆみえんです!



天高く馬肥ゆる秋。デイサービスにはみなさまで丹精込めて育てたミニ農園があります。夏の間は本格的な畑作業とまでは行きませんが手間をかけ水をかけ、ミニトマト、ナスなど大きな栽培ポットで様々な野菜が育ちました。

この秋にデイサービスが初挑戦する野菜は「大根」になります。はじめは栽培ポットで大根なんかできるのか半信半疑な気持ちもありましたが、みなさまが毎日こまめに水やりをしていくことでスクスクと育っていく大根を目の当たりにして、みなさまも職員も一緒に驚いています。この冬に収穫できる大根は、おでんの具材にしたり、大根おろしにして食べたいなど楽しみにされています。

デイサービスではコロナウイルス感染予防のため、蜜を避けて楽しむことが出来るプログラムを職員全員で趣向を凝らして提供しています。ぜひ興味のある方は一度デイサービスを覗いてみてください。今年もみなさまが笑顔で年末を迎えることが出来るよう楽しいプログラムを考えていきたいと思っています。

介護1課 金子知雄

フェイスシールドって?

ケアマネジャーの感染症対策!

透明なバイザー型の飛沫防止シールドです。頭を透明なシートで覆い、近くで話しても、飛沫を防ぐことが出来て、感染予防に効果的と言われています。訪問時に利用しています。

最近ではスポーツでも積極的に活用されています。オリンピックで柔道の審判が使っていたのをテレビで見た人もいないのでしょうか?



……でも実際にこのようなフェイスシールドを被って、突然家の前まで来られては何事かと思ってご利用者が驚いてしますよね!? それは避けたいので、とても注意しています。

まずは訪問の前に電話で、しっかりと説明するようにしています。(その際に体温や体調を確認します。)フェイスシールドも、例えば本人が見ている玄関先で被るなどの工夫を場合により行っています。

★もしかすると、これをお読みの方の元へもケアマネジャーが訪問する機会があり、フェイスシールドを被っていくことがあるかもしれません。その際はご理解をお願いします。在宅2課 出目基

敬老式典

令和3年9月20日(月)

第31回あゆみえん敬老式典を行いました。コロナ禍での実施ということもあり、マスクの着用と消毒のご協力をいただき、午前と午後の2回に分けて実施するなど、感染予防対策を行った上での開催となりました。

式典には、祝い年の方42名を含むご利用者128名と、職員40名が出席し、今年100歳を迎えるご利用者には内閣総理大臣祝状、東京都知事祝状、記念品が贈呈されました。

また、併設のあゆみ保育園園児たちからは、手作り作品と映像によるお祝いの言葉と歌のプレゼントがされました。総務課職員によるミニコンサートでは、バイオリンとピアノで、なつかしい日本のうたが披露され演奏を楽しまれました。

ご利用者のみなさまが、お元気に敬老の日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

いつまでも健やかにお過ごしいただけますよう職員一同ケアにつとめてまいります。

介護5課 原純一



EPA職員紹介!!

6月からEPA介護福祉士1名、EPA6期生2名の計3名の職員が入職しました。3名とも日々一生懸命頑張っています。

彼女達が働きやすい職場を創り、彼女達と共にご利用者へ快適なサービスを提供していきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。



ルディアン さん
EPA介護福祉士
介護4課

ハイキングやキャンプが好きです。今まで多くの人に助けられたので、今度は私が多くの人を助けられるよう頑張っていきたいです。よろしくお願いします。



インタン さん
EPA6期生
介護4課

趣味はジョギングで週末は近所を走っています。ご利用者に喜ばれるように、丁寧なケアを心がけていきたいです。よろしくお願いします。



ディアナ さん
EPA6期生
介護2課

料理が好きです。先日はナンゴレンを作り美味しくできました。ご利用者に寄り添ったケアを心がけていきたいと思っています。よろしくお願いします。

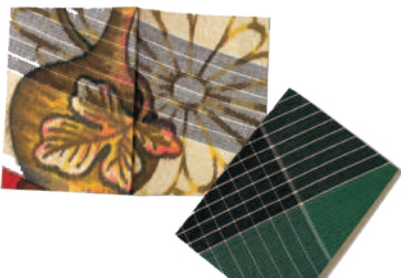
聞き手：介護三課 課長 諸江光宣

青梅紹介

織物のまち

江戸時代、青梅の産業は林業、石灰そして織物でした。「青梅縞」と呼ばれた着物地は全国的に流行しました。明治になり洋装化が進んでからは、夜具地（布団をつつむ布）の生産へと転換し、戦後の一時は全国夜具地シェアの6割を占めていたそうです。その後、化学繊維や暮らしの洋風化の影響を受け、青梅夜具地は徐々に衰退し、1999年に生産を終了しました。しかしその歴史は継承され、今もタオル工場や藍染工房として残っています。

現在、東青梅駅近くの都立青梅総合高校西側の一角が織区と名付けられ、青梅織物工業協働組合の旧織物加工工場や、大谷石造りの旧発券倉庫・旧都立繊維試験場が、ギャラリーやカフェ、映画館として再生され、青梅市の織物歴史スポットとなっています。



残念ながら、今はコロナ禍でこれらの建物に入ることはできませんが、住吉神社近くのカフェで、青梅夜具地を使った製品を見ることが出来ます。カフェのご主人によると、布はすでに生産停止されているため、残った反物を大切に使うって作品を作っているそうです。青梅夜具地の柄は、なぜか壺とバラが多く、現在その謎を解明中だとか。私も壺柄の布を張ったノートを購入しました。先に糸を染めて、柄を織り出す手法で、緻密な模様を作り出した昔の機屋さんの技術と芸術性に驚きました。コロナ終息の折には、織物のまちとしての青梅を巡る散歩はいかがでしょうか。

総務課 福岡直子



□ あゆみえんインフォメーション □

詳しいお問い合わせは、あゆみえん、相談課まで
電話 0428-30-5550

あゆみ VOL.101

発行 社会福祉法人 徳心会
特別養護老人ホーム あゆみえん 広報委員会
〒198-0024 青梅市新町9丁目2153番地3
TEL.0428-30-5550 FAX.0428-30-5570

発行人 園長 笛木昭宏
編集人 広報委員長 諸江光宣
発行日 令和3年10月15日
E-mail ayumien@tokushinkai.jp
HP https://tokushinkai.jp/



※写真につきましては、ご利用者およびご家族の了解を得て掲載しております。
※撮影のため一部マスクをはずしております。

秋になりました。

秋といえばみなさまはどのような秋を思い浮かべるでしょうか。

スポーツの秋、芸術の秋、行楽の秋…私は食欲の秋ですね！

先日22年待ちのコロッケというのを見かけてすごく興味が出ています。

22年後のたまもんを楽しみにしてください。

イラスト・記事 介護5課 久保田萌奈

